

「安全・安心で豊かな暮らしの中で、
今と未来の人々が夢や希望を
叶えられる世界。」の実現に向け、
KOBELCOグループの総合力を
最大化しながら、社会の発展に
貢献し続けていきます。

株式会社神戸製鋼所
代表取締役社長

山口 貢



株主の皆様には日頃から格別のご高配を賜わりまして厚く御礼申し上げます。

2023年度上半期の業績やトピックス等をご報告いたしますので、ぜひご覧いただきたく存じます。

当上半期の業績及び配当について

当社グループの当上半期の連結業績につきましては、鉄鋼メタルスプレッドの大幅な改善、電力での神戸発電所4号機の稼働や燃料費調整の時期ずれ影響の改善、売電価格に関する一過性の増益影響等により、経常利益は前年同期に比べ497億円増益の916億円となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、子会社において固定資産の譲渡益を計上したことなどから、前年同期に比べ523億円増益の803億円となりました。

当期の連結業績につきましては、機械でのサービス案件の増加や受注採算の改善、建設機械での円安による輸出採算の改善、電力での売電価格に関する一過性の増益影響、さらには在庫評価影響の改善等により、経常利益は1,450億円程度、親会社株主に帰属する当期純利益は1,200億円程度と見通しております。

また、当期の中間配当につきましては、これまで親会社株主に帰属する当期純利益（連結）の15%~25%を目安としておりました配当性向を、株主の皆様への利益還元のための充実のため、当期より「同30%程度を目安」へ変更したことを踏まえ、1株につき45円といたします。株主の皆様には、何卒ご理解を賜りたいと存じます。

中期経営計画最終年度を迎えて

今年が最終年度となる今中期経営計画では、最重要課題として「安定収益基盤の確立」と「カーボンニュートラルへの挑戦」の2つを掲げてスタートさせました。半導体不足に

よる自動車産業の低迷や地政学リスクの高まりに起因するエネルギーをはじめとした原材料価格高騰の影響等、事業活動全般に影響する多くの変化があり、厳しい状況が続きましたが、重点施策を着実に実行するとともに、ものづくり力の強化や販売価格の改善に向けた取組みを通して「安定収益基盤の確立」については一定の手応えを感じています。

一方、カーボンニュートラルについては、世の中の気候変動に対する取組みが加速する中で、当社グループの有する事業の活躍の場がより一層増していると感じています。当社グループはこれまで特長ある製品を多く世の中に提供してきましたが、当社グループの有する多様な事業をグループ内でうまく掛け合わせることで新たなビジネスの展開が期待できます。自社生産プロセスでのCO₂削減を着実に進めるとともに、お客様でのCO₂排出削減貢献に関しても、さらに大きな役割を果たしていきたいと考えています。

持続的社会的実現へ

カーボンニュートラルをはじめとした社会課題やお客様のニーズに応えることが、当社グループの使命であり、新たなビジネスチャンスでもあると考えています。当社グループは、素材系事業、機械系事業、そして電力事業と、多様な事業を展開する世界でも稀有な企業体です。多様な事業を有するということは、多様な技術、人材、マーケットを有していることであり、それらを掛け合わせた「総合力」を発揮することで、新たな価値を生み出せる存在であると信じています。引き続き、当社グループの技術・製品・サービスを通じて持続的社会的の実現に貢献し続けてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続きご指導とご鞭撻を賜りますとともに、当社グループをご支援いただきたく、何卒宜しくお願い申し上げます。

2023年12月